

事業計画書

事業名	平成 30 年西日本豪雨災害の真備町被災者による語り部活動支援事業
団体名	語り部ネットワークまび

1 目指す姿

事業を通じて目指す姿や、事業を実施する目的はどのようなものですか。「地域や社会、人のどんな問題を解決し、どのような状態にしたいのか」を具体的に記入してください。

平成 30 年西日本豪雨災害の経験を教訓として、防災力を高めた安全で安心な社会をつくることを目指す。今後 5 年以内に、「語り部の活動をしたい、しなくてはならない」の思いを持つ個人や団体が繋がり、真備の図書館や公民館で開始する語り部の活動が倉敷、児島、玉島、水島、船穂の各地区でも開催されているようにしたい。

2 現状

上記 1 の目指す姿と比べて、現在はどのような状況にありますか。

- ・社会に甚大な影響を及ぼした災害であっても、その歴史や個人・地域の体験、記憶を伝え続けていくことは難しく、時間の経過とともに風化しやすくなる。
- ・災害の歴史、個人や地域の体験や記憶は他人事としてとらえられやすく、実際の暮らしや生活に教訓として活かされにくい。
- ・被災者の中には、豪雨災害による体験の消化ができない人や、近親者や友人・知人を失くし助けられなかったことの悲しみや後悔といった重荷を降ろせない人がいる。

3 目指す姿と現状の隔たりの要因

上記 1 と 2 の隔たりを生み出している主な原因はどのようなものと考えますか。

- ・平成 30 年西日本豪雨災害の経験を語り部として、伝え続けるための仕組みがなく、その活動を支援する団体や組織がない。
- ・被災体験について語り伝えたいと思う個人や要配慮者、団体が点在しており繋がりやネットワークがない。
- ・体験・記憶を語り伝えるための機会が少なく、定期的には開催されていない。
- ・地域の中で、災害の経験や記録を平時のリスクコミュニケーションや防災教育のコンテンツに利用したり、教訓として考えたりする機会が少ない。
- ・まびの住民が被災の体験を語ることで、つらい体験を消化したり重荷を下ろしたりすることのできる語りの場があまりない。

4 計画の概要と対象者

上記3で挙げた要因を取り除くため、どのような人を対象に、どのような活動を実施しますか。150字以内で簡潔にまとめてください(計画の詳細は下記5に記入してください)。

平成30年西日本豪雨災害の真備町被災者による語り部活動を支援するために、以下について取り組む。語り部活動支援を目的とするネットワーク作り 災害の語り部についての知識や技術を学ぶための研修企画の立案と実施 語り部の活動の実際、語り部の会を開催する。

5 計画の詳細

(1) 具体的な内容

内容、対象者、実施期間、実施場所、ねらいなど、できるだけ明確に記入してください。

1 語り部活動を支援するためのネットワークづくり

「語り部ネットワークまび」(以下、「語り部ネット」)は、点在している語り部活動に関心を持っている個人や団体を繋げることで、そのネットワークをつくる。また、語り部の活動の場を確保し、永続的に語りの活動ができるように支援する。

「語り部ネット」は語り部のネットワーク作りの準備として、語りの活動実績がある個人や団体に協力をお願いし、ネットワークのあり方活動内容について相談や意見交換をする。語り部として活動主体となる個人や団体の自・他推薦による語り部活動員や協力者を明確にし、ネットワークの名簿を作成する。「語り部ネット」では、対面によるコミュニケーションだけではなく、オンライン等も活用した話し合いの場を設けることで、語りの活動員同士やその協力者と顔の見える関係づくりができるようにする。

活動内容はネットワーク作りや活動の場の確保とその支援にとどまらず、語り部の発掘や養成、語りについての知識習得や技術向上を目的とした研修、先進的な取り組みをしている語り部との交流などにも取り組む。

語りの会の内容はビデオカメラを使用し、語り部のありのままを映像として記録する。記録した映像は、将来の災害に対する備えとして役立ててもらえるように研修や教育のコンテンツとして活用できるように保存する。取り組んだ内容については、活動記録としてまとめる。

2 研修と語り部の会での基調講演の企画立案と実施

語り部としての活動を希望する人を対象に、実際の活動内容や活動に必要な知識や技術について学ぶための研修と語り部の会での基調講演の機会を各1回ずつ設ける。

(1) 語り部についての知識や技能に関する研修 (8月): 自分たちの活動の振り返りと活動経験者からの助言・指導を受けてもらい、語りの知識や技術について学んでもらえるようにする。語り部活動の際の共通認識や注意事項などについても話し合える機会を持てるようにする。

(2) 語り部の会での基調講演(2月市民文化祭): 真備での実際の語り部活動の機会をつくる。また、語り部活動の先進地から活動経験者に来てもらい、語りの活動内容の実際について学んでもらえるようにする。

3 オールまび語り部の会「生かされているものの語り合い」の開催

地域住民を「聞き手」参加者とする語り部の会を図書館や公民館などの公共施設や町民行事を利用して実施する。会では語り部による語りが終わった後に、「語り部」と「聞き手」との交流の場を持ち、災害リスクや防災、自然との共生について一緒に考え、話し合う機会を設ける。

平成3年度は真備の市民文化祭では、一般公募した語りを取り入れて、オールまび語り部の会「生かされているものの語り合い」を開催する。

(1) 語り部として伝えることの効果: 風化しやすい個人や地域の災害体験や記憶を多くの人に知ってもらい、映像や活字として整理・保存することで将来にも活用してもらう。

(2) 被災者である語り部にとっての効果: 「被災体験」を共有することで消化しきれない気持ちや重荷を下ろすことの一助としてもらう。「心のケア」として役立ててもらう。

(3) 「語り部」と「聞き手」との交流の効果: これから先の未来に対する準備として「災害リスク」や「防災」、「自然との共生のありかた」等について一緒に考え、教訓としてもらう。また、災害(自然)を畏怖の対象とするのではなく、「共に生きるものである」との共通認識をもってもらえるようにする。

(2) スケジュール(準備～実施～報告)

4月	「語り部ネットワークまび」(以下、「語り部ネット」)ネットワーク作りのための協力者・関係者への連絡・調整、相談
5月	語り部活動員の募集、活動員や協力者の名簿を作成
6月	語り部についての知識や技能に関する研修準備
7月	
8月	語り部についての知識や技能に関する研修の実施
9月	
10月	市民文化祭 準備開始 語り部の一般公募の準備
11月	市民文化祭 語り部の一般公募の募集開始
12月	
1月	
2月	市民文化祭 オールまび語り部の会「生かされているものの語り合い」の開催
3月	活動記録のまとめ

(3) 実施体制

上記(1)の計画を実施するにあたり、実際に取り組む団体会員を記入してください。

氏名	事業に有効な資格や経験
大熊正喜 (代表)	岡山県認知症介護指導者として県の研修事業で講師歴 15 年 岡山県生涯学習大学連携講座を主催して 6 年、活動している。 市民ミュージカル団体 マービーミュージカル in 倉敷の代表として創作ミュージカルの上演を続けている。
大熊明美 (事務局長)	理学療法士として高齢者医療・福祉におよそ 30 年従事、箭田にある居宅介護支援事業所の管理者として勤務していた時に事業所が被災し退職した。地域ボランティア・放課後デイサービスにて活動中である。岡山県認知症介護指導者として県の研修事業で講師歴 9 年、講師として現在も活動を継続中である。 「人間学」「教育学」の学位取得 令和 2 年小学校教員免許取得
矢吹顕孝 (副代表)	一般社団法人 お互いさま・まびらボの事業として語り部「七夕会」を主催し、2019 年 12 月より語り部活動に従事している。参照誌として「川と暮らす」がある。
森脇 敏 (運営委員)	地域住民の団体「真備・岡田の復興・再生を考える会にて、2019 年 1 月より、過去の災害の歴史や今回の災害の原因について調査研究し発表してきた。
山口敦志 (運営委員)	箭田まちづくり推進協議会会長 箭田まちづくりでは被災直後の住民アンケートをもとに、生の記録ではなく「朗読劇」のようなシナリオ作りを計画している。 また、これとは別に真備図書館を拠点に活動していた「真備語りの会まきび」で朗読や読み聞かせの会を主導している。
峰山洋子 (運営委員)	岡山生涯学習 インストラクター協会顧問 全国万葉協会会員 自らも被災者で、体験を町外の公民館で話す機会を持っている。
土屋雅子 (運営委員)	被災まで真備図書館を拠点に活動していた朗読「まきび・野の花」代表である。ほとんどのメンバーは被災し散り散りになったが、練習会場を確保、活動を再開し 2019 年 12 月には真備保健福祉会館で津波災害の物語「いなむらの火」などの作品の朗読発表会を行っていた。
10 名を超える場合は、外〇〇名としてください	
外 () 名	

(様式第 1 及び第 2 の別紙 2)

語り部ネットワークまび

収支予算書

1 収入の部

科目	内訳	金額(円) 2	積算根拠
受益者負担		9,000	寄付
会費からの繰入			
その他		100,000	マルセン財団 助成
市補助金		150,000	
収入合計		259,000	(支出合計と一致)

2 支出の部

科目	内訳	金額(円) 2	積算根拠
人件費 (会員) 1		0	
交通費 (会員) 1		0	
人件費 (アルバイト等)		0	
謝金 (講師等)		60,000	関西圏より 30000 円 × 2 回 研修・語り部の会の基調講演
旅費交通費 (講師等)		25,000	新幹線利用 片道 6220 × 4
消耗品費	文具類 一式	34,000	文具類 コピー用紙等 ¥6,354 収納・ファイリング物品 ¥8,610 筆記具・マジック等ワークショップ用品 ¥11,466
	インクカートリッジ	8,000	名札 ¥2,960 その他文具 ¥4,477 インクカートリッジ @3709 × 2 セット
印刷製本費	行事資料印刷代	8,000	A4×8P×50 部×2 回 @10 円 × 800
	チラシ・ポスター印刷代	53,000	チラシ@10 円 × 5000 枚 ポスター@30 × 100 枚
通信運搬費	郵送費	2,000	定形外@120 × 5 名 × 3 回 1800 円
保険料	行事用保険	3,000	社協・ボランティア行事用保険 @28 × 50 人 × 2 回
使用料・賃借料	行事会場費	19,000	マービーふれあいセンター市民文化祭 2 日目日曜使用 さつきホール昼間 9-17 11000 円 付属設備 7780 円
外注費・委託費	チラシ・ポスター・資料集 デザイン外注	30,000	
対象経費計		242,000	
食糧費	会議費	17,000	会議 茶菓代 月 1 回 × 7 人 のべ 84 人 × 200 円
人件費			
その他			
対象外経費計		17,000	
支出合計		259,000	(収入合計と一致)

(様式第 1 及び第 2 の別紙 2)

1：会員に支払う人件費交通費は、**協働事業部門のみ**計上でき、その合算額は**対象経費計の 1 割**を上限とする。

2：金額欄は切り上げて**千円単位**で記入する。

組織運営体制

団体名	語り部ネットワークまび
ふりがな	かたりべねっとわーくまび
法人格 (○をつけてください)	<u>任意団体</u> ・NPO 法人・一般財団法人・一般社団法人・公益社団法人 公益財団法人・社会福祉法人・協同組合・その他 ()
CANPAN 登録の有無	有 ・ <u>(無)</u>

CANPAN: 日本財団及び特定非営利法人 CANPAN センターが運営する, 市民・NPO・企業などの活動を支援する WEB サイト
以下の項目は, CANPAN に登録する情報と同等の内容です。登録済みの場合は, そちらを参照すると便利です。

新規チャレンジコースに申し込む団体は, 情報のある項目のみ記入してください。

1 組織体制

任意団体活動開始年月	2020 年 12 月 (西暦)
法人格取得年月	年 月 (西暦) 法人格なし
事務所 所在地	倉敷市玉島長尾 67-13
代 表 者	職・氏名 代表 大熊正喜
	電話番号 090 - 3639 - 0993 (連絡可能時間帯 6:00 ~ 22:00)
ウェブサイト URL	http://www.facebook.com/kataribemabi
活動地域	倉敷市真備町
役員数・職員数計	7 名 (役員 7 名, 職員 0 名)
設立年月	2020 年 12 月
活動分野 (該当に○をする) (複数回答可)	子ども・青少年・障がい者・高齢者・在日外国人・留学生・福祉・保健・医療・ 教育・学習支援・ <u>地域・まちづくり</u> ・ <u>文化・芸術の振興</u> ・スポーツの振興・環 境・エコロジー・災害救援・ <u>地域安全</u> ・人権・平和・国際協力・国際交流・男女 共同参画・IT の推進・科学技術の振興・経済活動の活性化・起業支援・ 就労支援・労働問題・消費者保護・市民活動団体の支援・観光・農山漁村・中山 間・助成活動・食・産業・漁業・林業・行政監視・情報公開・行政への政策提言・ 学術研究・その他 ()
活動目的 (規約等に定めるもの)	平成 30 年西日本豪雨災害の経験を教訓として、防災力を高めた安全 で安心な地域社会を住民主体でつくることを目指す。 今後 5 年以内に、「語り部の活動をしたい、しなくてはならない」と う思いを持つ個人や団体が繋がり、真備での語り部の活動が定着し 倉敷、児島、玉島、水島、船穂の市内各地区においても、公民館や図 書館を会場に継続的に開催されるようにしたい。
設立以来の主な 活動実績	平成 30 年西日本豪雨の被災地真備地区で、この災害をくぐり抜け復 興に向けて歩んでいる私達の体験を、次の世代に語り継ぐ活動が必要 である、自分たちもやりたいという声は、あちらこちらから出てお り、実際に、様々な場所で一部の先進的な団体・個人が被災体験を語 る機会を持っている。 私達は、このような動きを緩やかにつなぎ、それぞれが取り組む災 害伝承の活動を「オールまび」で、より組織的・継続的におこなう必 要を感じ、2020 年 12 月にそのネットワークの核になるべき者たちが 発起人となり「語り部ネットワークまび」を設立した。
現在特に力を入れて いること	平成 30 年 7 月の被災後、毎年 2 月に開催されていた「真備市民文化 祭」は、会場となっていたマービーふれあいセンターの復旧が終わる まで 2 年以上中断している。この「文化祭」復興に向けたプレ・フェ

(様式第 1 及び第 2 の別紙 3)

	スティバルを、With コロナ時代の新しいオンラインの様式を取り入れて、2021 年 3 月 28 日に真備公民館と箭田分館を会場に開催される計画がある。この機会に、メイン会場での地元諸団体のステージ発表と並行して、初めてのオールまび「語り部」の会を開催すべく準備している。
--	--

2 団体概要と財政状況

団体の活動・業務 (事業活動の概要)	代表の大熊正喜が、長年の真備町内高齢者施設での勤務や市民創作ミュージカルの活動、更に、被災後の復興にボランティアとして関わる中で培ったネットワークを活用して、この平成 30 年西日本豪雨災害をくぐり抜け復興に向けて歩んでいる真備の体験を次の世代に語り継ぐ活動の定着にむけて、同じ思いを持つ団体・個人の緩やかなネットワーク形成を呼びかけている。 2020 年 12 月に、多様なコアメンバーをつなぎ、ネットワークに参加する様々な団体・個人が、「語り部」としての研修の機会、発表の場を組織的・継続的につくつていけるよう、2020 年度末の行事から次年度につなげる企画を話し合い、実施準備をしている。
今後の活動の方向性	平成 30 年西日本豪雨災害の真備町被災者による語り部活動を支援するために、以下について取り組む。 語り部活動支援団体「語り部ネットワークまび」のネットワークを拡げる。 災害伝承の語り部についての知識や技術を学ぶための研修企画の立案と実施 語り部の活動の実際、オールまび語り部の会を定期的を開催する。 また、地区外からの派遣依頼に応じる。
最新決算総額 (該当に○をする)	・ 100 万円未満 100～500 万円未満・500～1,000 万円未満・1,000～5,000 万円未満・5,000～1 億円未満・1～5 億円未満・5 億円以上
定期刊行物	なし

3 活動概要と協働実績

助成金・補助金等の 支援を受けた実績	なし
他 NPO・市民活動団体との協働実績	一般社団法人 お互いさま・まびラボ 箭田まちづくり推進協議会 真備・岡田の復興・再生を考える会(2021 年 1 月より「まび創成の会」) 真備語りの会まきび 朗読「まきび・野の花」 学舎まび
企業・団体との協働 実績	なし
行政との協働実績(委託事業など)	なし